

第4回 県庁舎のあり方等に関する検討会 議事要旨

1 日 時 令和7年9月8日（月） 13時10分～15時00分

2 場 所 兵庫県庁第2号館5階 庁議室（オンライン併用）

3 出席者

（1）検討会構成員 ※敬称略

氏 名	職名等	出欠
妹背 勝幸	兵庫県 DX推進監	出席
上村 敏之	関西学院大学経済学部 教授	出席
塩出 佐知子	P&G ジャパン合同会社 ガバメントリレーションズ ディレクター	欠席
開本 浩矢	大阪大学大学院経済学部研究科 教授	出席
古屋 浩	日本放送協会神戸放送局 局長	出席
赤澤 宏樹	兵庫県立大学 自然・環境科学研究所 教授	出席
秋元 勇人	西日本旅客鉄道(株) 近畿統括本部 兵庫支社 副支社長	出席
大井 史江	武庫川女子大学建築学部建築学科 准教授	出席
嘉名 光市 ※	大阪公立大学大学院工学研究科 都市系専攻 教授	出席
小泉 寛明	(株)緑青舎 取締役	出席
高田 知紀	兵庫県立大学 自然・環境科学研究所 准教授	欠席
奈良山 貴士	みなと元町タウン協議会 副会長	出席
蓮池 國男	神戸元町商店街連合会 会長	出席
津島 秀郎	神戸市 都市局 都心再整備本部 局長(事業推進担当)	出席
大豊 康臣	兵庫県議会 副議長	出席
紅谷 昇平	兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科 准教授	出席

※：会長

（2）県当局

齋藤知事、服部副知事、木村理事、池田防災監、有田総務部長、中之蘭財務部長、田中県民生活部長、波多野職員局長兼県庁舎整備プロジェクト室参事、松井県庁舎整備プロジェクト室長、津志新庁舎企画課長 ほか

4 主な意見

※ 開会あいさつ、メンバー紹介、資料説明等については省略するとともに、発言内容は一部要約しています。

- ・ 県庁舎の建て替えを機に、職員の働き方や元町エリア、県庁舎が新しく生まれ変わるということを、大きなビジョンで、県民へのメッセージとして基本構想において打ち出していくことが重要。
- ・ 元町エリアが変化していくことを、工事現場のフェンスなどに時系列で分かるように描くなど、積極的に情報発信してはどうか。
- ・ 庁舎等整備の事業費については、県の実質負担が当初の想定からどのぐらい圧縮さ

れたのかを明確に示すべき。

- ・ 今後も物価上昇が続く場合は、県の努力で対応できるものではないことを、共通の認識としておくべき。
- ・ 活用予定の地方債について、国へ期限延長を要望されているが、過去の事例を示すなど、延長の見通しを示したほうがよい。
- ・ 庁舎等整備の財源確保に向け、現在の想定以外にも多様な手段を検討してはどうか。例えば寄付を募り、希望者には新庁舎内にネームプレートを刻印するといったインセンティブを付与する施策や、ふるさと納税の活用も考えられる。
- ・ 職員提案や若手職員提言部会で出た提案内容は、できるだけ実現していただきたい。特に若手の意見を重点的に聞くことが重要
- ・ 新庁舎が完成するまでの間、一旦仮移転することを好機と捉え、思い切った断捨離をしてはどうか。また、仮移転中の BCP のあり方についてはよく検討すべき。
- ・ 今回の検討見直しを通して、より災害に強い庁舎が実現でき、県民の安心・安全に繋がる点は意義があった。
- ・ 災害時でも柔軟に使えるようなゆとりの確保が求められる。企業の災害対策では、ゆとりのスペースが災害時の的確な対応を可能とし、平時にはイノベーションを生むスペースになると言われている。
- ・ オープンスペースや庁舎のゆとりを確保することは、災害時に役に立つメリットだけではなく、将来の建替用地の確保や、建替時の整備面積を縮減することにも繋がる可能性がある。
- ・ DX や ICT ツールなどで代替できる業務には限りがあるため、職員間のコミュニケーションを通じて、共創に繋げていく視点は重要。
- ・ DX により業務を効率化していくだけでなく、生まれた時間を価値創造や新しい事業の創出のために使っていくというメッセージをしっかりと出したほうがよい。
- ・ AI が普及し、職員の代わりに業務を担ってくれる存在になってくることに備え、文書のデジタル化を進めていかないといけない。今回の庁舎の仮移転先スペースの縮小にも資することである。
- ・ 庁舎が当面の間は分散型配置となるため、県民への庁舎案内も含め、県民サービスの維持・向上策を検討しておくべき。
- ・ 県の産業の PR については、ロビーを活用した展示等による PR だけでなく、例えば県産木材を使った木造庁舎であるなど、建築に反映するようなコンセプトとすることはできないか。
- ・ 現状は週 5 勤務が当たり前だが、極端な話、将来的には週 2 勤務の時代が来るかもしれない。将来の可能性をできるだけ想定して、可変性を持たせた建築計画を考える視点が必要かもしれない。
- ・ 文化芸術については、もう少し具体的なイメージを詰めたほうがよい
- ・ 2 号館敷地の民間提案エリアについて、駐車場と新議会棟が建つとすれば、実際に提案できるエリアは南側に限定されてしまうが、県民オアシスの樹木の取り扱いも気になるので、どのように提案するか難しい。
- ・ 民間提案のあり方については、もう少しフレキシビリティがあったほうがよい。県民会館のあり方についても事業者が提案できたほうがよいのではないか。

- ・ ポートタワー周辺から、県庁周辺へのアクセス強化は重要。徒歩だけでなく、公共交通機関の確保を神戸市と協議して考えてはどうか。
- ・ 既存の緑空間については、大きなボリュームを絶対に残すべきで、樹木を伐採することはいけないといった意見がよくあるが、必ずしもそうではない。
- ・ 緑は何かと組み合わせて機能することを一番求められているため、適切に管理し、庁舎やにぎわい空間と組み合わせていくための考え方を提示したほうがよい。
- ・ 2号館敷地の民間提案エリアは、樹木もある中で提案してもらうには、樹木の取り扱いについて、変わらない部分を事業者に提示する必要がある。
- ・ 庁舎機能の配置についても、1号館敷地に集約することを絶対条件とせず、例えば一部の部署は、民間提案エリアに配置し、民間施設と組み合わせてもよいといった柔軟な設定を許容することで、提案の幅が広がるのではないかな。
- ・ 行政が提示している制約条件について、よく理解されていない状態で事業者から提案がなされ、内容が良くても条件的に不採用としてしまう事例がよくある。
- ・ 民間提案は段階的に行うか、対話型で行うなどすることで、行政側は必要に応じて基本構想の考え方や要件を緩和するなどの対応ができ、事業者は要件をよく理解したうえで、より良い提案を再度考えられる。
- ・ 県庁敷地のオープンスペースについて、災害時の一時避難場所として位置付けられているが、屋根がなく雨晒しになってしまうため、県民会館で受け入れるなどの対応も考えてもらいたい。
- ・ 県庁機能は、駐車場や議会棟も含めて全て集約した方がいいのではないかな。ある程度まとまった土地の方が提案しやすいのではないかな。
- ・ 築40～50年が経過した建物では、躯体としてはまだ使えるが、設備的な改修ができないために建物を解体しなければならない事例が多いため、設備改修ができる十分なスペースを設けておく視点は必要。
- ・ イニシャルコストが高くなったとしても、長期間に渡り使う建物なので、ライフサイクルコストを削減できる設計の視点も重要。環境負荷の低減にも繋がる。
- ・ 執務空間について、組織改編も含めて時代とともに変わることを想定し、柱スパンを広くするなど、柔軟性のある設計が求められる。
- ・ 元町駅北側エリアとの南北のアクセスが大きな課題であるため、にぎわいづくりだけでなく、例えばレールバスなどの交通手段を整備してはどうか。
- ・ 元町駅以南から北側へ避難をするには、鯉川筋か花隈本通しか動線がないため、避難動線の整理も神戸市と連携して検討してほしい。
- ・ 大学生で官公庁に就職するよりも、民間企業に就職する志望者が多い。特に、オフィスが新しくなった企業では一時的に人気が出て、優秀な学生が集まりやすい。働きたいと思える綺麗で魅力的な庁舎でないと人材確保は難しい。
- ・ 「VI基本的な考え方」と「V再整備の方向性」について、項目と記載内容が合っていない部分や、記載順序が逆のほうがよい部分があるので、構成を整理してはどうか。また、スケジュールについては「VI基本的な考え方」に入れるのは違和感がある。
- ・ 基本的な考え方は、もう少し分かりやすくするため、平易な言葉やキャッチーな言葉で表現できないかな。
- ・ 会議室の稼働率向上に取り組むとあるが、会議は一番生産性の低い働き方であるため、

究極的には会議自体や会議室を減らす方向で検討すべきではないか。とはいえ、会議室は一定必要なので、メインは共創スペースとして整備し、可動式パーテーションなどでフレキシブルな建てつけとすることで、会議室としても使える形にするなど工夫し、表現も工夫してはどうか。

- ・庁舎は見栄えよりも、災害対応の機能を備えるなど、コンパクトで機能的であることを優先するのは大事であるが、一方でにぎわい創出が難しくなるのではないか。
- ・様々な視点が取り入れられており、事業を進めていく中で、上手くかみ合わなくなる部分が生じる可能性もある。すべての県民が理解することは難しいと思うが、場合によっては優先順位をつけて前に進め、県民から愛される県庁にしてほしい。
- ・一番力を入れていく点や、新しいものを創っていることを上手くアピールしてほしい。特に、静かなぎわいという言葉が心に残った。
- ・元町駅周辺の再整備に向け、ワークショップでの議論をスタートした。元町駅周辺も含め、都心エリア全体の活性化を見据えながら、県と神戸市が協調しながら、プロジェクトを進めることが重要。
- ・民間事業者が地域と連携してエリアマネジメントを進めていく方針は、にぎわいづくりの機運を高めるために、基本構想段階から盛り込んでおくことが重要。
- ・プロジェクトを進める上で、県の目指すものや進捗状況を県民に共有するために、構想段階からの情報発信を行うことが必要。三宮再整備では、工事現場の囲いに完成イメージを描く取組をしている。
- ・働き方改革とモトキタのにぎわいのそれぞれの観点で、最終的な目標がもう少し明確になってもいい。数字的なものがあれば、都度でチェックがしやすい。
- ・p20で、「元町駅西口のバリアフリー化」とあるが、西口改札を出て北側の階段のことを指していると思われる。これは当社の敷地ではなく、駅のバリアフリーとは別の事柄なので、県民の方が誤解されない表現に改めてほしい。この問題に関しては、関係者として協力する立場にあると認識している。
- ・民間提案エリアを挟んで新議会棟と新庁舎が整備されれば、一体感がなく、行政と議会の連携に支障が出ないか少し心配。
- ・県の目指すものが一目瞭然で示せるような表現が必要ではないか。建物は機能的でコンパクトかもしれないが、県庁周辺はシンボリックな土地であり、表現の工夫が必要ではないか。
- ・県産木材を積極的に活用し、庁舎を木造化又は木質化してはどうか。森林整備に貢献し、防災や環境の観点にも繋がることから、新庁舎整備を通じて目指すコンセプトの1つに位置付けられるのではないか。
- ・構想の構成について、どこが目玉かが少し分かりにくいかもしれないため、県民に伝わりやすいインパクトのある打ち出しを検討してはどうか。
- ・今回のプロジェクトのポイントは、庁舎、働き方、にぎわい、災害対応といったそれぞれの観点で検討したものを、積み上げて単純に足すのではなく、重なる部分は無駄を省き、1つの形で作ろうとしていることではないか。全体を取り巻く大きな考え方を検討してはどうか。
- ・「VI基本的な考え方」の部分を、冒頭に記載することも考えてはどうか。
- ・サウンディングのあり方や情報発信、仮移転に併せた文書整理などの留意点について

は、構想に盛り込んだほうが良いものと、基本計画で整理するものは整理したほうがよい。

- ・ 構想の段階から、施設の供用開始後の維持管理に支障がないか等、現実的なことを想定しておくことで、設計段階の手戻りを防ぐことができる。
- ・ 新庁舎整備後の中長期視点でこのエリアのまちづくりを検討するうえで、県庁周辺に点在している関連施設についても考慮しておくべきではないか。
- ・ これからの庁舎は、まちの活性化にどう貢献できるかが問われようとしている中、今回のプロジェクトで、にぎわいづくりを柱の1つに据えたことは画期的であり、パイロットモデルになるのではないか。
- ・ 兵庫県が、庁舎整備に併せて元町のまちづくりに貢献する理由は説明が必要であるが、庁舎と周辺のまちづくりが互いに補完し合いながら活性化に結びつき、実現できるということが非常に重要なポイントである。